



参議院議員
選挙特集号

じちろ

自治労中央機関紙

発行所

全日本自治団体労働組合
東京都千代田区六番町1
TEL 03-3263-0273
FAX 03-5210-7422
定価一部30円1年間900円
(組合員の購読料は
組合費の中に含む)

第22回参議院選挙公示

私たちの代表 えさきたかしを 国会へ送ろう



●自治労組織内候補「えさきたかし」さんは6月24日、東京・自治労会館で第1声をあげた

プロフィール

1956年福岡県生まれ。法政大学(社会学部)を卒業後、79年に福岡県旧三橋町(現柳川市)に入職。広報・社会体育・同和教育・企画などを歴任。自治労福岡県本部書記長、自治労中央執行委員(労働局長)を経て、現在は自治労特別執行委員(公務員制度改革担当)。

参議院比例代表 自治労組織内候補

6月24日、第22回参議院選挙が公示され、選挙戦はいよいよ本番に入った。昨年8月の総選挙で、私たちが念願してきた「政権交代」が実現した。連立政権は、不要不急の公共事業の大幅見直しを行ったほか、自公政権のもとで削減され続けた地方交付税・診療報酬を増額するなど、市町村重視の政策に舵を切った。今後とも厳しい経済情勢の下で景気回復・雇用問題等々の課題を解決し着実に政策実現するためには、安定した政権が不可欠である。自治労は今参院選を「政権交代」で切り開かれた「国民生活優先」「地域主権」への新しい歩みを確実なものにする極めて重要な選挙と位置づけ、全力で取り組む。

自治労組織内協力候補の「えさきたかし」です。

この間全国約1000単組を訪問し、また約4万通の政策提言カードをいただきました。皆さんがそれぞれの現場で頑張っている熱い思いに直に接してきました。そして、私が皆さんの熱い思いを国会にぶつけていくんだという決意を新たにしています。

自民党中心の政権によって公共サービスはスタスタに切り捨てられ、地域は悲鳴をあげています。公共サービスの再生なくしてはこの国の再生はありません。政権交代が実現した今こそ、公共サービスを再生させる時です。今私たちがどういう行動をとるかが今後の日本のあり方を決めます。現場の仲間が働いている場所、それが、この国の最前線です。だからこそ、現場の声を届け、政治の力で公共サービスの再生をはかる必要があります。ともに声をあげれば、不安は勇気になると信じています。そのためには皆さん、手をつなぎましょう。現場の仲間の思い・声を国政に反映させるために、奮闘します。みなさん、この夏一緒にがんばりましょう。

選挙区候補にも支援を！



北海道選挙区
藤川まさし

56年苫小牧市生まれ。札幌市職員を経て、札幌市議会議員(2期目)。札幌市職青年部長、副委員長、書記長、札幌市労働書記長、民主党北海道副代表を歴任。現在は民主党北海道地域主権推進委員長。「誰もがふるさとで安心して暮らせる国づくり、人を大切に」する政治の実現をめざす。



沖縄選挙区
山城 博治

52年うるま市生まれ。法政大学卒、県庁職員を経て、04年から県本部副執行委員長、平和運動センター事務局長に就任。今選挙では、辺野古移設の日米合意の撤回を求めると共に、日米地位協定改定、労働者派遣法改正、最低保障年金制度導入、後期高齢者医療制度廃止の実現をめざす。



内閣総理大臣・民主党代表 菅 直人

元気な日本を復活させる。

旧民主党を結党して14年。現在の民主党になってから12年をかけて、政権交代を実現できました。今、民主党は、国民の負託を受けて政権の座に就いています。しかし、私一人でこの重責を担うことはできません。民主党の多彩な人材が、政府や党のなかで、日々皆様のために懸命に働き、日本を支えているのです。どうぞ、彼ら彼女らの奮闘する姿をご覧ください。民主党は一つのチームです。そのチームに「えさきたかし」さんを加えて下さい。私の仕事は、彼ら彼女らの力を結集し、皆様の負託に応えること。改革を必ず実現し、元気な日本を復活させます。

高嶋さんから「えさき」にバトンタッチ 相原さんとともに現場の声を国政に反映させます！



高嶋良充

参議院議員

1959年大阪府枚方市職員。現在、民主党参議院幹事長

相原久美子

参議院議員

1986年札幌市非常勤職員。現在、環境委員会(理事)

手をつなごう。

ともに声をあげれば、不安は勇気になる。

えさきたかし 50の基本政策

公共サービスの再生を、先へ、先へ。

市民ニーズに応え対話するのは自治体やその関連職場で働く職員です。医療や介護現場が、職員のがんばりだけで成り立っている現状を見逃ごせません。現場を知る私たちが、危機を訴えていかなければならないのです。

地方分権を、先へ、先へ。

国策に振り回されるのは、もうたくさん！国の税財源配分の見直しは緊急を要します。財源、権限、人間の「三ゲン」が地方にしっかり委譲された、真の『地域主権』を実現させましょう。

差別のない平和な社会を、先へ、先へ。

人権が守られ誰もが大切にされる社会、あらゆる差別のない社会を、わたしたちの職場から作っていきましょう。安心して明日を迎えられる社会は、誰にとってもかけがえのない財産です。

公務員制度改革と、労働基本権を、先へ、先へ。

2012年の公務員制度改革まで、待たなし。自治体やその関連職場で働く私たちの声を政府・与党に届け、本当の公務員制度改革を実現しましょう。

雇用の安定を、先へ、先へ。

格差社会の象徴ともいわれる「官製ワーキングプア」。60万人を超える自治体の臨時・非常勤等職員や、行政サービスを担う多くの公共民間職員は、欠かせない存在となっています。今こそ、流した汗が報われる社会が求められているのです。

ともに先へ、先へ。

えさきたかし



「希望と安心の社会」を実現しよう！

連合会長 古賀伸明

自治労委員長 徳永秀昭



自治労の底力をしめそう！

歴史的な政権交代から9カ月。新政権は発足以来、官僚主導・利益誘導型政治からの変革に果敢に挑んできた。しかし、新政権への期待が高かっただけに、その後の政権運営に失望された方も少なくなかったと思う。連合は一貫して政権交代のある政治体制の確立を訴えてきた。そして昨年夏、ようやくその入り口に立った。日本は今、まさに政治改革の途上にある。ここで歴史の針を逆戻りさせることはできない。

政府・与党には志の高い「理念」と「政策」が、私たちに「希望」と「忍耐」が必要だ。その先にこそ、私たちのめざす『希望と安心の社会』が開けるはずだ。皆さん。昨年夏、一人ひとりの投票によって政権選択を行った意義を改めて思い起して、この夏、さらにその歩みを進めようではないか。職場・地域で全ての力を結集し、「えさきたかし」の当選を何としても勝ち取る。

念願の政権交代以降、民主党政権は、公務員制度改革や労働基本権問題、消防職員の団結問題、「地域主権」の推進など、自治労が求めてきた政策を押し進めている。この流れを逆戻りさせず、さらに「先へ先へ」と押し進めていくことが必要だ。自治労が、社会的にも政治的にも影響力を維持し、自治労の政策を実現するためには、「えさきたかし」を勝利させ、底力を示さねばならない。いよいよ、出発の時がきた。これから本番だ。

自治労組合員一丸となって、ひとりでも多くの友人・知人に「えさきたかし」の名前を覚えてもらうよう、徹底的に、取り組みを進めてほしい。その取り組みの結果によって、連合内はもちろん、社会的な立場において、自治労の組織そのものの真価が問われるのだ。最後まで気を引きしめてがんばろう。自治労を代表する唯一の候補「えさきたかし」勝利めざして、最後の最後まで、粘り強く頑張れぬこう！